



## 医療・福祉講演会要旨

去る平成14年3月5日に行われた  
第7回講演の内容をまとめました。

### 「親として子供に性をどう伝えるか」 健康教育専門家 小貫 大輔

#### 日本における性教育

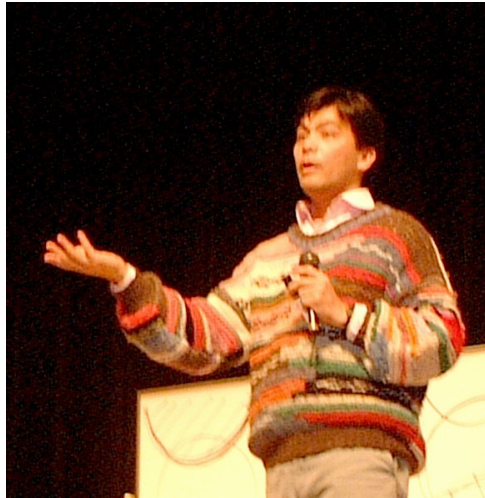
最近、日本の学校では小学校4年生頃から性教育が始まっている。10年前の改訂で受精と出産が教科書に載るようになったが、大変な話題になった。「お父さんの精子とお母さんの卵子が結びついて赤ちゃんができて、お母さんのお腹の中で育って産まれてくる」と理科で教えるようになったが、そうすると子供達は「どうしたら精子と卵子がくっつくの？」と質問するようになった。それに対して日本中の学校の先生方は「どのように答えようか」と大騒ぎになった。結局解決策を見出せないまま10年が経過したが、大抵の教育委員会では、集団を対象には教えないという方向をとっている。

#### シュタイナー教育における性教育

個人の自主性を重んじるシュタイナー教育の本には、9才位の子供に対しては、「お父さんとお母さんには、あなたの体を用意して成長させるという仕事を与えられたんだ。この大切な仕事を引き受けたとき、とても嬉しかったよ。お父さんとお母さんは抱き合って愛し合った。お父さんの体の一部がお母さんの膣の中に入り、二人はしっかりと結ばれたんだ。そのとき、お父さんの種が液体になってお母さんの体の中流れ込んだんだ。そしてその液体が卵子と結びついてあなたの体が生まれたんだよ」と話したらどうだろうかと書かれている。私はこうした話に大変共感を覚える。

性教育は学校に任せてないで、親がしっかりと教えなければならない。その原点として、人間は動物と同じく性行為をするが、お父さんとお母さんが愛し合ったというように、心が大きく関与している点で動物とは異なっている事を教えなければならない。そして、セックスをすることによって、それまで存在しなかった新しい命がこの世の中に生まれて来るという、地上の生活とは別世界、つまり神様の世界との接点があるという事を教える事が大切である。つまり、人間の世界では、動物とは異なって体の行為、心の行為、神様の世界とのつながりという三つの事柄が、バランス良く組み合わせられているのである。

9才の頃は、こうした三つの話が初めて出来る時期であり、これより小さいとこの三つの話は難しい。まだ半分神様の世界に住んでいるような幼児からの、「私はどこから来たの？」という問いかけには、「神様の国からお母さんのところに届けられて、お母さんのお腹の中で育てられて出て来たんだよ」という風に答えたらどうだろうか。幼児には三つの事柄の内の神様の部分だけの説明で良いだろう。但しその前提として、肉体の事は生活の習慣であり、当たり前になっていなければならない。子供にとっては手も性器も区別がつかない。その時に性器に触ってはダメ、汚いと教えるのではなく、例えば手を洗うと同じ様に性器を洗うような習慣を身に付けさせ、小さい時からごく当たり前の事として、性器とか性についての知識を植え付ける事が大切である。こういうときに、日本では女性性器についての呼称が無い事は大変問題であり、正しい習慣、知識を身に付けさせる上で障害になっている。



思春期を迎えた15,16歳といった中学校、高校生に対しては、体の話を淡々と包み隠さず教える事が大切である。この年齢の頃が色々と問題を起こす可能性を秘めているので、一番話したいところであるが、神様の話や心の話はする必要なく、体の事だけを話して、後は自分の責任できちんとするように仕向ける。その大前提として、淡々と話せるような人間関係を築いておく事が求められる。

#### エイズについて

14年前に、5年間におけるブラジルの貧民街でのエイズ教育に携わり、以来何らかの形でエイズ問題に関わって来た。胸に着けているレッドリボンにはエイズに偏見が無いという意志表示であるが、1992年のオランダにおける国際会議で、「エイズはただの病気ではなく、偏見があるから解決しない。偏見を無くす事が大切だ」という事を主張するのに、小さなグループがこのリボンを使い始めてから世界中に広がったものである。エイズ問題を考える時、思春期における性教育がとても大切であり、親子の信頼できる人間関係を通してエイズ予防教育を進めなければならない。

#### 思春期における妊娠

世界には思春期における妊娠がとても多い国と少ない国がある。多い国の代表はアメリカであり、少ない国の代表はオランダである。アメリカの白人家庭では、14-18歳位の子供達にはセックスさせないように、親が厳しく監視しているが、却って隠れてセックスするようになり、結果的に妊娠してしまうことが多い。それに対してオランダでは、ただ頭からセックスを禁止するのではなく、セックスするならばちゃんと父母に相談するように、そして性について積極的に教育しているので、妊娠する割合が低い。この年代は、体だけはセックスできるように成長したものの、心はまだ子供であり、いかにこの年齢層で妊娠させないかは、世界中の大きな課題となっている。

#### 日本における学校教育の問題点

日本では思春期の子供に対して、ああしてはいけない、こうしてはいけないと権威的に押さえつける傾向がある。しかし、この時期の子供達は権威的なものに対して反抗する年代であり、自己を見つける思春期になっても自分を押しさえつけようとする大人を敵として捕らえてしまう。一方、きちんと教えなければならない小学生位の子供達に自由を与え、授業中に私語をしたり、教室の中を歩き回るのを容認している。こうした事は、全く逆であり、自己が確立してない時期にはきちんと教育し、自我に目覚めた頃には対等な立場で、そして人生の先輩として尊敬されるような人間関係の中で教育する事こそ必要である。

最も大切なことは、全てを学校の先生に任せるのではなく、家庭内で、また親同士が力を合わせあって子供達と信頼できる人間関係を築くことであろう。



ルドルフ・シュタイナー Rudolf Steiner(1861-1925)  
1861年、旧オーストリア帝国(現クロアチア)生まれ。哲学博士。ウィーン工科大学で自然科学・数学・哲学を学び、ゲーテ研究者・著述家・文芸雑誌編集者として、19世紀から20世紀にかけて活躍。シュタイナー教育は、彼が自由学校で実践した教育法で、幼児・児童期、青年期など、段階に応じた能力の発達を尊重し、自主性を育てるのが特徴。現在も幅広く実践されている。

\* バックナンバーをご用意してあります。ご希望の方は医事課 小野寺までお気軽にどうぞ。

医療法人 医徳会 ホームページアドレス <http://www.itokukai.or.jp> です。

